

学びのデザインシート（授業前）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【職業科】

1. 対象 知的障害 高等部 3年生

自己理解が弱く、自分の強みや課題を考えることが難しい生徒集団である。他者から見える自分の姿を知り、自己理解につなげながら、今後の目標を自分で設定していけるとよい。

2. 単元名「 職場実習に向けて 」(全4時間)

3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	職場実習に必要な技能や態度を身に付けることができる。
思考力, 判断力, 表現力等	職場実習を通し、職業生活に必要な事を考えて自分の目標を設定することができる。
学びに向かう力, 人間性等	将来の職業生活を踏まえ、現在の課題を表現し、生活を工夫しようとすることができる。

4. 本時の目標

実習に必要な礼儀や態度を身に付けることができる。

5. 授業展開【 本時 ・ 単元 】 ※本時または単元いずれかに○を付けてください。

解決したい課題や問い
実習中、事前挨拶の際にふさわしい言葉遣いや態度について考えよう

考えるための材料
質問事項を書いたワークシート、ロールプレイ、動画
想定される活動
・実習先の方と実習生の役割を交代しながら行うことで、面接をする上で気を付けることに気づくことができる（声の大きさ、姿勢、言葉遣い、目線等）。 質問者も緊張感を持って取り組むことができる。

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）
・教師が実習先の方の役を行い、面接練習を行う。観察している生徒から意見がでないときは教師が視点を伝える。 ・生徒が2人1組になり、実習先の方と実習生の役割を交代しながら行う。質問する側、答える側の両方を体験することで、よりよい態度や話し方に気づく。 (予想される生徒の言葉) 「返答が難しい質問をされたときは無理に答えない方がよい。」 「座っているときの姿勢はもう少し正した方がよい。」 「メモは簡潔に取る方がよい。相手の顔をしっかりと見て、聞こえる声で行うとよい。」

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）
・言葉遣いや態度はできているつもりだった。話し手のことを考えて行動したい。 ・顔を見て話すことの大切さが分かった。 ・友達の意見を聞いて、課題が分かった。本番で意識して取り組みたい。